

ご近所の お医者さん

626

森口医院長 **森口久子さん** 一守口市

子どもたちの笑い声取り戻す

年末になり、2年ぶりにインフルエンザの小流行が見られています。

来年1月にはインフルエンザと新型コロナウイルス感染の同時流行のピークが来るのが危惧されます。そのためインフルエンザワクチン接種は子どもたちも、高齢者も推奨されています。

一般的にはインフルエンザワクチンの効果は4〜5

カ月、毎年接種している成人は1回接種で比較的安定した免疫が得られますが、13歳未満の小児は2回接種とされています。

ワクチン接種、考えて

い年齢と言われています。

現在、高齢者のワクチン3回接種率は89・2%、5歳〜11歳小児の3回接種率は5・9%で、感染力が強いオミクロン株が流行の中心になった第6波、第7波の頃から、ワクチン接種率が低い子どもたちがコロナウイルスの標的になっているように見えます。

生後6カ月までに通常の定期接種の大半を済ませば、乳幼児コロナワクチンは1回目接種から3週間後の2回

さらに今年はコロナワクチン追加接種が同時に推奨されています。加えて10月末より生後6カ月から5歳未満のコロナワクチン乳幼児接種が開始されました。乳幼児はインフルエンザでもコロナでも高齢者の次に重症化しやす

目、さらに8週間後の3回目接種は終了です。インフルエンザワクチンとの同時接種も認められていますが、その他の不活化ワクチンとは2週間の間隔をあげます。乳幼児、小児のコロナワクチンは接種後効果持続期間が成人より短いとされていますが、発熱や局所痛などの一般的副反応は、成人の半分以下です。

世界的に人の移動が回復する中、日本でも人流の制限はほぼ

なくなり、子どもたちの学校生活もコロナ前に戻りつつあります。今後のウイズコロナにおいて、子どもたちの健全な心身の発育を考える時、ワクチン接種をして制限のない活動に戻ることも重要ではないでしょうか。パンデミックを乗り越える時はもうすぐここに来ています。にぎやかな子どもたちの笑い声をこども園や学校に取り戻すために、親子でワクチンについて考えてみませんか。

(府医師会理事)

